

生活科学部で学ぶみなさんへ

家庭科 教員免許 取得の すゝめ



いま、家庭科がおもしろい

附属中学校、高等学校の取り組みから

◎ 附属中学校

まずはふれてみることから始め、つくる手やえらぶ目を実践の中から少しずつ身につけていけるような学習をしています。「やってみよう」→「できた」→「もっと工夫してみたい」という実感のともなう流れを大切にしています。

内容例：調理実習／栄養と献立／食文化と食習慣／日常着の手入れや補修／衣服の役割／家族・保育／ネットトラブル／消費環境など。

◎ 附属高等学校

様々な側面から生活にアプローチしていきます。自分が暮らしている現実についてより深くかんがえる心を、体験や実践とともに育んでいけるような学習をしています。

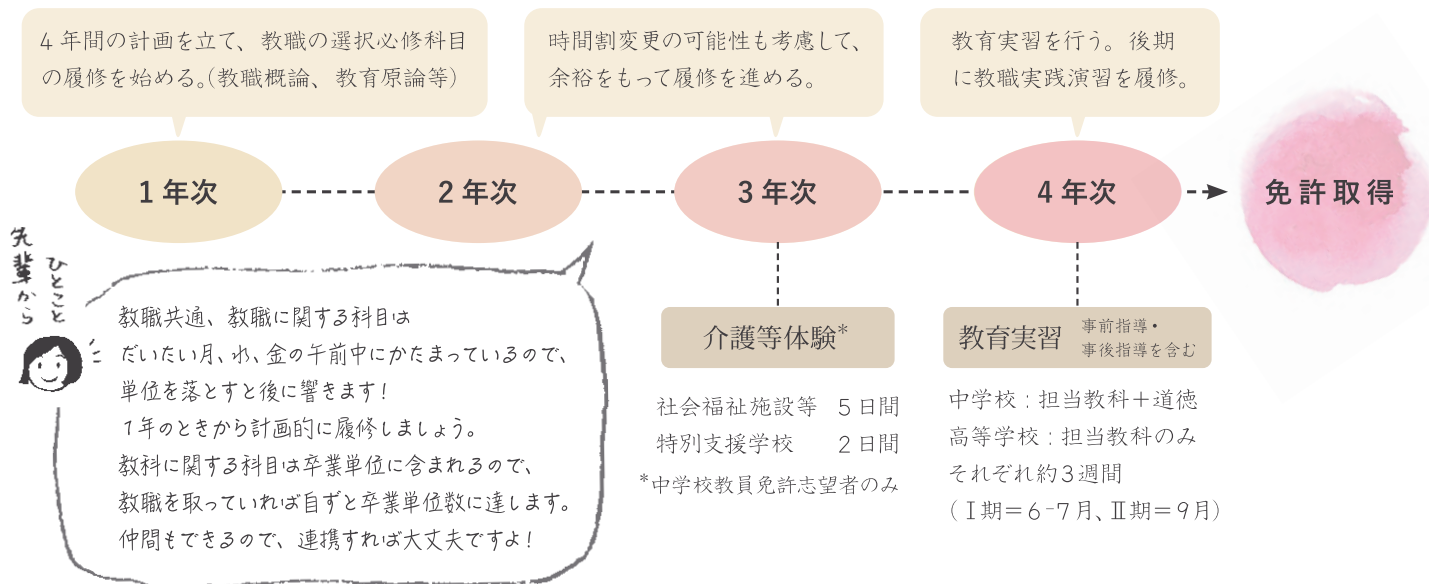
内容例：食や衣服の衛生・安全・環境／高齢社会と福祉／介護体験／住居設計／女性史とジェンダー／エシカル消費／フェアトレード／消費者としての自立など。

家庭科授業の藍染め体験から展開した“エシカル・ファッションショー”

高校で様々な社会貢献活動を行うアフガン・ボランティア部による、文化祭でのチャリティー企画です。エシカル（人権や環境、社会貢献を意識する）という価値観を大切にしたい衣服によるファッション・ショーです。家庭科で製作した藍染めの服に、連携したエシカルブランドの服や小物を合わせました。文化祭での手作り藍染め商品の販売利益は、途上国子ども教育支援のNGO プラン・ジャパンへ寄付しました。



免許取得までの履修イメージ



履修科目の詳細については、教員免許オリエンテーションや冊子「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」、「生活科学部 履修の手引き」を活用してください。「家庭科教員キャリアコース支援委員」の教員も随時相談にのります。(別紙参照)

キャリアを実り多きものにする家庭科

現代ほど暮らしのなかに情報が氾濫している時代はありません。だからこそ「えらぶ目」「つくる手」「かんがえる心」が大切になってきます。科学・政治・経済など、あらゆる分野と繋がりがひろがってゆく家庭科教育で、これからの自分のキャリアと暮らしをいっそう実り多きものにしませんか。

生活科学部で家庭科教育を学ぶということ

◎ 教員免許は生涯有効な国家資格です。

10年ごとの更新は必要ですが、更新しなくても失効にはなりません。

◎ 第一線で活躍する先生方が講義を担当されています。

家庭科教科書の編集・執筆に関わった先生方も多くいらっしゃいます。

◎ 所属学科・講座の専門科目を履修していれば、取得は難しくありません。

学部在籍中に取得しておくことが後々とても有利になります。

◎ 教育実習は原則的に附属中学校・高等学校で行われます。

帰省する必要がなく、学内で実習ができます。

◎ 暮らしに役立つしかな知識や技術を身につけることができます。

衣食住、福祉、保育、消費と環境など、生活の基盤をしっかりと学べます。



附属高／エシカル・ファッションショー



附属中／調理実習

免許取得後の多彩なキャリアコース

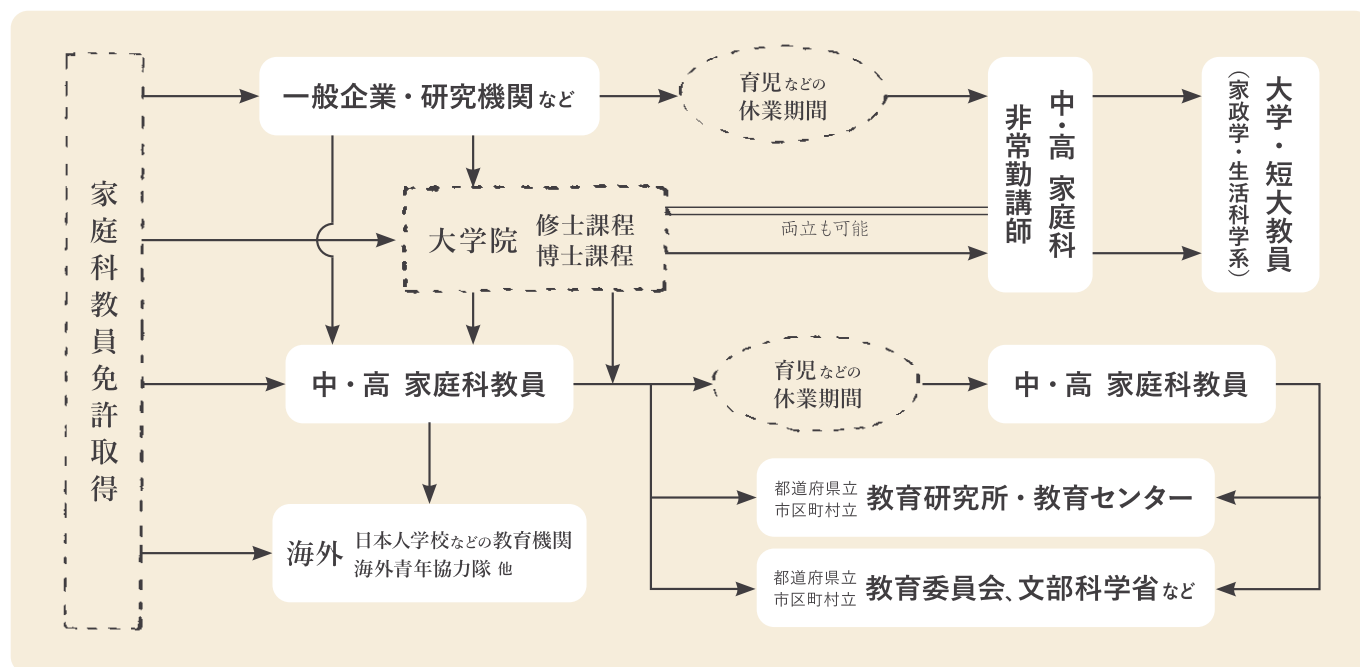
※ 中・高等学校1種免許を取得すると、国公立・私立中学校、高等学校の教員もしくは非常勤講師、産休補助教員の仕事をすることができます。

学部の中に免許を取得した先輩からの声です。みなさんのキャリアプランの参考にしてみてください。

「教職免許があることで、研修・教育・消費者対応に関連するさまざまな場で重宝される。」

「相手の立場（生徒、教員、保護者など）に立って客観的に考えられるとても良い機会だった。」

「どの進路を選ぶにも大学でなにをやってきたかが問われる。家庭科教職をとったことは大きなアピールになる。」



先生方・先輩からのメッセージ

よしうち

葭内 ありさ 先生

大学院前期課程 修了
お茶の水女子大学
附属高等学校教諭



公立学校の教員は、地方公務員です。国立、私立学校は各校毎の採用です。基本的に男女平等な職場で、女性にとって仕事を続けるには大変有利な職場です。1年間育児休業が保障されており、自治体によっては3年間の育児休業が取得できます。

私立中高を経て、現職へ。生徒の成長に立ち会えるのを嬉しく思うと同時に、自分も感動や気づきを与えられてきました。

家庭科は、生活に関わる全ての事柄を、科学・政治・経済などの視点で捉え直し、日々の実践に生かす、奥深い教科です。教えることで興味

が深まり、改めて勉強したり、自分の生活を振り返ったりすることができます。授業へのアプローチも様々で、教員の個性や創造性を生かしやすい面白さがあります。様々な機関や専門家との連携も、幅広い分野を扱う家庭科ならではのようです。

一般の会社で経験を積んだ後に家庭科教員を目指す人も、今までに多く見てきました。自分の可能性を広げ、生活を見つめ直すきっかけとしても、教職を学ぶ意義は大きいのではないのでしょうか。

有友 愛子 先生

大学院前期課程 修了
お茶の水女子大学
附属中学校教諭



幼い頃から暮らし全般、家庭科に関わるのが好きです。中学校の授業では、生徒が暮らしに目を向け、学習したことを自分自身の暮らしに生かして欲しいと願いながら授業づくりに取り組んでいます。

大学院を修了し、特別支援学校（聴覚障害）の中学部に務めた後、お茶中に異動しました。特別支援学校での家庭科の授業づくりで工夫してきたことの多くが、現在の授業づくりに生かされています。これまでの経験を生かして生徒と向き合っていくことができることは、教員という職業の魅力の一つです。

ある時、だし・うま味に注目して教材研究を進めていくうちに辿り着いた先が、学生時代に在籍していた調理学研究室でした。そして、企業にお勤めの研究室の先輩にご紹介いただいた方と一緒に授業づくりに取り組むことになりました。このように、学校外の方とつながって授業づくりを進めていくことができ、ヒト・モノ・コトとつながる学びを展開できることが家庭科の魅力の一つです。

家庭科教員免許取得のために学んだ仲間が増え、その仲間がそれぞれの場所で活躍していることを心強く思います。

小堀 香純 先生

大学院前期課程 修了
横浜市立中学校教諭



私は大学卒業後、海外の日本人学校に3年間赴任し、帰国後、横浜市の公立中学校で勤め始めました。初めは臨時的任用教諭として、その後は正規職員として勤務しています。今は二人の子を育てながら教職を続けており、私は仕事と子育ての両立がしやすいと感じています。

教職には、生徒から自分自身が刺激を受けて成長できること、毎年様々な生徒と接すること、いつでも新鮮な気持ちで楽しく仕事ができること、何より、生徒の成長を間近で感じられることに魅力を感じています。特に、卒業式で見られる生徒たちの笑顔と自信に満ちた背中には、

大きな達成感を得られ、教員をやっていてよかったと心から感じます。

家庭科は、生活に直結した生きる力を育てる教科です。生徒に教えることで自分の生活を見直すことができたり、自分の経験を指導に生かせたり、家庭科を教えることって興味が尽きることなく面白いです。

「人に教えること」は、あらゆる職業で必要になることが多いため、教職を学ぶことは社会に出て大きく役に立ちます。資格をとると人生の選択肢が広がりますよ。

相談や不明点などは、
家庭科教員キャリアコース支援委員の先生へ。

生活科学部の各学科・講座に支援委員の先生がいます。各助手室にお問い合わせの上、直接、またはメールで気軽に相談してください。お待ちしております。（生活科学部 家庭科教員キャリアコース支援委員会）